



実際の投票用紙で投票する厚高生

厚真高校で胆振総合振興局の選挙出前授業

胆振総合振興局は6月23日、厚真高校で各級選挙に関する出前授業を開き、対象となった3年生20人が実際の投票用紙を使って投票を体験しました。

胆振総合振興局の担当者が、選挙の種類や選挙権と被選挙権の違いなどについて講義したあと、生徒たちは別の教室の投票記載所で投票を体験しました。担当者は「投票は、社会の一員としての責任を果たす行為。積極的に参加して欲しい」と呼びかけました。

佐々木恒子さんに百寿のお祝い

宮坂町長は6月26日、小規模多機能ホーム夢ふうせん「ほんごう」を訪れ、佐々木恒子さん(京町)に百寿のお祝いの賞状とお祝い金を贈りました。

佐々木さんは現在、長女の山下律子さん(京町)家族と同居しています。この日、施設でお祝いの会が開かれ、律子さんと次女の桑原優子さん(千歳市)も同席しました。

宮坂町長は「楽しい日々を過ごしてください」と佐々木さんに語りかけると、佐々木さんは目尻を緩めて賞状を眺めました。



佐々木さんをお祝いする律子さんと優子さん姉妹

初夏の陽気の中でガーデニング講習会



寄せ植えのコツを伝える梅原さん

町コミュニティ運動推進協議会(山下昌秀会長)は6月29日、表町公園の野外ステージでガーデニング講習会を開きました。

有限会社梅原商店の梅原智哉さんを講師に招き、24人が参加しました。梅原さん手作りの資料を基に苗の特徴や習性などを学んだ参加者は、寄せ植えに挑戦。ガーデニングコンテナと呼ばれるプランターと用意された28種類の花の苗から、好みの5種類を選んで植え込み、自慢の寄せ花を完成させました。しばし暑さを忘れた参加者は、自慢の寄せ植えを前に記念写真を撮影し、笑顔を弾けさせました。

厚真中学校陸上競技場で初の「厚真フィールドチャレンジ競技会」



果敢な跳躍をみせる地元選手

町や町教育委員会、厚真陸上競技協会、厚真スローイング、苫小牧陸上競技協会が共催する「厚真フィールドチャレンジ競技会」が6月17日、厚真中学校陸上競技場で初めて開かれ、アスリートたちが熱戦を繰り広げました。

大会は、厚真中学校のグラウンドが日本陸上競技連盟の第4種ライト公認陸上競技場として今春、改修されたことを記念して開かれました。小学生から一般までの4部門に分かれて跳躍や投てき競技などが行われ、道内各地からエントリーした選手67人が自己ベストをめざして躍動しました。

競技会に先だって行われた開会式で、町教育委員会の遠藤教育長は「今回が、この競技場のこけら落としの大会になります。ステップアップのきっかけや成長する場として、この大会が皆さんに愛されることを願っています」とあいさつしました。

町は6月20日、上厚真地区で認知症徘徊搜索模擬訓練を行いました。

ソフトバンク株式会社がスマートフォン向けに開発した見守り支援サービス「オレンジセーフティネット」を活用し、地域住民と連携した見守り体制の構築をめざしています。

上厚真小学校では、5、6年生22人が5班に分かれて、見守り支援サービスを体験。失踪者に見立てて校内に隠されたあつまるくんをゲーム感覚で探しました。

一方、厚南会館では、認知症サポーターや住民27人が、認知症キャラバンメイトの村上朋子さんのミニ講座を受講しました。村上さんは「徘徊する背景には何があるのかを推理することが大切です。当事者の気持ちや家族の思いに寄り添うことも心がけましょう」と解説。安心して暮らせる環境を整えるうえで、地域住民の理解や協力が必要だと呼びかけました。

また、講座終了後には、高齢者の行方不明搜索模擬訓練が行われました。参加者は、6グループに分かれて上厚真市街地に繰り出し、オレンジセーフティネットに寄せられた情報などを共有。参加者は、地図を見ながら失踪者が立ち寄りそうな場所を予測しながら、徒歩でくまなく捜しました。

本年度の認知症徘徊者の 搜索模擬訓練を実施



見守り支援サービスのアプリを体験する上厚真小学校の児童たち



町が北海道文教大学と包括連携協定を締結

胆振東部地震で被災した厚真町、安平町、むかわ町は7月10日、北海道文教大学（恵庭市）と包括連携協定を結びました。

協定は、人材の育成や教育・研究、町民の健康の増進、地域の活性化などの分野で、自治体と大学が相互に協力し、地域社会の発展を目指すことを目的としています。

3町長は、協定書に署名して渡部俊弘学長と文書を取り交わしました。



協定を交わして記念撮影する竹中町長、宮坂町長、渡部学長、及川町長(左から)

渡部孝樹議長が 全国町村議会議長会の会長に就任



渡部孝樹議長

町議会の渡部孝樹議長が7月12日、東京都内で開かれた全国町村議会議長会の臨時総会で会長に選出されました。

厚真町議会議長が、全国町村議会議長会の会長に就任するのは初めて。渡部議長は、平成11年に町議会議員に初当選し、平成23年5月1日に議長に就任。令和元年6月に北海道町村議会議長会の会長に就き、同年から全国町村議会議長会理事を務めています。渡部議長は「愛郷無限の精神に変わりはありません。頻発する激甚化災害への対応をはじめ、住民の生活を守り産業の発展や地域振興など、町づくりのためにしっかり取り組みたい」と語りました。

厚真市街地で夏の交通安全運動 北海道の街頭啓発

夏の交通安全運動北海道初日の7月13日、厚真市街地で街頭啓発が行われました。

運動の重点は、飲酒運転の根絶、バイク・自転車の交通事故防止、スピードダウンと全席シートベルトの着用、子どもや高齢者の事故防止です。町内の各種団体や事業所などから90人が参加し、交差点の沿道に並んで交通事故抑止を呼びかけました。



事故防止を呼び掛けた交通安全の旗

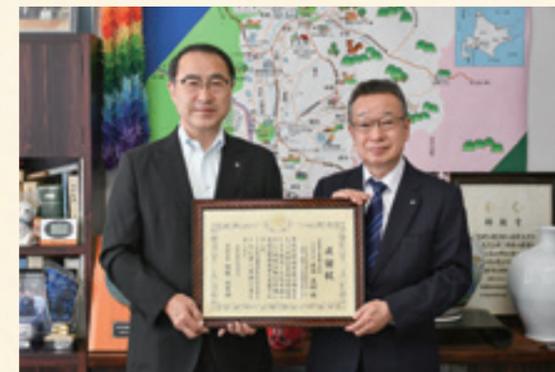
社会を明るくする運動 キャラバン隊が来訪

苫小牧地区保護司会の「社会を明るくする運動」のキャラバン隊が7月4日来町し、総合福祉センター前で宮坂町長に内閣総理大臣メッセージを伝えました。

キャラバン隊は、会長の二階堂徹さんや同保護司会厚真分区長の大橋正治さんなど総勢21人。コロナ禍による行動規制が緩和されたため、4年ぶりにキャラバン活動を再開しました。宮坂町長は「孤立している人は増えています。コミュニティの活性化やアウトリーチを活用し、皆さんの幸せを守りたい」と話しました。



内閣総理大臣メッセージを託したキャラバン隊の皆さん



社長に代わり感謝状を受けた伊藤組土建株式会社の名取哲哉専務

町が伊藤組土建に感謝状を贈呈

町は7月5日、伊藤組土建株式会社の太谷正則代表取締役社長に感謝状を贈りました。

同社は、富里災害関連緊急傾斜地工事などを請け負う傍ら、胆振東部地震で被災した東和地区の町有林で5月14日、同社や関連会社の職員など90人が、エゾヤマザクラ5本とカラマツの苗木1000本を植樹し、地域の環境改善に貢献されました。

宮坂町長は「皆さんの社会貢献活動に感謝いたします。今後も宜しくお願いします」とお礼を述べて感謝状を手渡しました。

町が地域活性化起業人 福井遼さんに委嘱状交付

町は7月5日、地方創生関連事業を手掛ける株式会社さとゆめ（本社・東京都）の社員、福井遼さんに地域活性化起業人の委嘱状を交付しました。

総務省の制度を活用し、関係人口の創出を中心に遊休不動産の活用や雇用の場の提供、移住者とのマッチング事業などを行う予定です。宮坂町長は「人口対策が大きな課題。今こそ、新たな挑戦が必要で、厚真を選んでいただけるように、お力添えをお願いしたい」と歓迎。福井さんは「会社は『ふるさとのゆめをかたちにする』という使命を掲げています。皆さまの夢を形にできるような事業をしっかり進めたい」と語りました。



委嘱状を手に意欲を燃やす福井さん